

- ① 中学校や高校の運動部の活動について、課題を端的に示している部分をリード(1段落目)から抜き出しましょう。

教員の負担増や少子化

- ② 記事を読むと、部活動をする上で先生(教員)は困っているようです。どんなことに困っていますか。

競技の専門知識を持たない教員が顧問を務めるケースが多く、長時間労働の原因にもなっている。

- ③ 民間の指導者に資格を与えることで、部活動にどんないいことがありそうですか？自由に考えてみましょう。

部活指導に国家資格

制度創設の構想浮上

民間コーチの参加促進

学校の運動部の指導に外部人材の活用を進めて質を向上させるため、スポーツ指導者の新たな国家資格制度を創設する構想が浮上していることが12日、関係者の話で分かった。実現すれば、教員の負担増や少子化が問題となっている中学校や高校の部活動が、民間クラブのコーチの参加促進によって活性化することが期待される。制度が定着すれば、現役を引退したトップ選手が資格を取得して指導できるとの声も出ている。(21面に関連記事)

今後、自民党が2020年東京五輪を見据えたスポーツ振興策の一つとして法整備の検討に入り、来秋にも議員立法で「地域スポーツ活性化法案(仮称)」として国会提出を目指す。

運動部の活動では、競技の専門知識を持たない教員が顧問を務めるケースが多く、教員の長時間労働の原因にもなっている。こうした状況を解決するため、資格制度の制定構想が浮上。住民が主体となって運営する「総合型地域スポーツクラブ」や、学校近隣にある水泳や体操などの民間スポーツクラブの指導者を想定、公的な資格を与えることで指導力や責任が明確になり、保護者の安心感にもつながることが期待される。

(2016年12月13日付朝刊1面)

民間で教えてくれる人が教員と同じように指導力、責任を持ってやってくれることを国が保証してくれる、資格を与えることで保護者が安心して子供を任せられる、などが考えられます。他にも考えてみてください。